

# 善正寺だより

掲示板法話

## お浄土に包まれている

## それぞれに命輝く世界が広がる



〒512-0902  
三重県四日市市  
小杉町1014  
浄土真宗  
本願寺派  
善正寺  
☎059-331-1670  
fax:059-332-0733

去る五月十五日、晴天に恵まれて親鸞聖人七五〇回大遠忌法要を無事お勤めさせて頂くことができました。

五十年に一度の大遠忌法要は宗門至重の法要(最も大切で、重要な法要)です。

お莊嚴は松一式の尊前立華に加えて、御絵伝前にも豪華な松一式の立華が寄進されました。出勤僧侶の装束も最高の礼装で、無言行道(諸僧が内陣を巡る)の作法には献華献灯の女性陣が同時に散華するオリジナルの演出も取り入れて賑々しくお勤めさせて頂きました。お参り下さったおばあちゃんが「この世のお浄土のようない」と感極まつた表情で感想を漏らされました。「お浄土に包まれてゐる」との実感、「これぞ大遠忌法要!」と喜ばせて頂きました。

「この世は五濁悪世。この世に生きる我々は煩悩具足の凡夫の境涯から脱することができるけれど、お浄土に包まれて生かされている」「お念佛申す人生の尊さ、安らぎを教えて下さつた親鸞さま、ありがとうございます」。

このおばあちゃんのよう「お浄土に包まれている」ことを肌で感じ取らせて頂くことにこそ、大遠忌法要の意味があるのだと思います。二百五十名もの応募、「ご参加を頂いたお稚児さん」の写っている写真を見ると、歩き疲れて抱っこされるお子さんや、何度も衣装を直して下さる親御さんたちのご苦労ぶりが窺われます。ようやくたどり着いた本堂のご本尊さまに向かって可愛い両手を一生懸命合わせる幼児たちにも「お浄土に包まれる人生」が感受される第一歩となつたのではないか?

父の揮毫した「南無阿弥陀仏」の名号軸を前にお勤めさせて頂いた総代さん宅での稚児宿勤行。お仏壇横の框には沢山のご先祖方の遺影が懸けられ、「この方々のお念佛相続のお蔭で今日の尊い仏縁が頂けたのだ」と胸に迫り、親鸞聖人のお導きの歴史をひとしお有難く感じさせて頂きました。

しかし、「次の時代にはもうこんな大法要は勤められないのではないか?」

### ☆行事ご案内☆

#### ◇7月の門信徒会例会

7月17日(日)夜7時半

- ① 三重組十三日講の歴史と意味
- ② 家族葬、直葬化傾向の中の仏事



新年度門信徒会会长に服部則男氏、会計に館賢二氏選出  
新三重組仏婦会長に館正子様、門推役員に佐藤和義氏が選出  
新年度三重組連続研修に落合薰様(東坂部)が受講決定

◇絵手紙教室 7月12日(火)午前10時 庫裏食堂11回目

◇キッズサンガ 7/2(土)4時。鐘つきは毎夕5時年中無休

◇三重組コーラス 7/11(月)午後1時より 西勝寺様

◇三重組十三日講 7月3日、八王子西光寺様(竜尾實法師)

善正寺ホームページ「三重 善正寺」で検索。1年分の寺報閲覧。

毎日更新のブログ「住職と坊守のつれづれ日記」が好評。開設7年11か月で20万8千訪問、一日約90訪問、悩み相談、大歓迎!即返信

◇『一縁会テレホン法話』059・354・1454お電話を!

7/4~10日(坊守)、7/11~17日まで(住職)担当

◇6/24(金)『中部・北陸仏婦大会』名古屋金山元市民会館(館正子、服部やす子、服部つや子、館澄代、館小恵子、高橋智恵子、坊守の7名、他三全仏婦役員等3名)参加、敬称略

◇新納骨堂:後継者のない方、お墓でお困りの方ご相談下さい

◇法事場所でお困りの方、寺にご相談下さい。本堂使用可

か?」という声も聞こえます。少子化、都市化で後継者難の傾向は否定できません。でも、「本願力に遇わなければ人生は空しく終わるのですよ」と親鸞さまが「和讃の中でお示しています。  
「お浄土に包まれているお互いだ。全てのいのちがそれぞれに輝くことのできる世界が広がっている」ことを学びつつ、老いも若きも相携えてお念佛相続に共々努めたいと思います。

寄稿

- ・お粗末な華見てもろた八十爺
- ・御遠忌の稚児行列や燕舞う(釋俊悦)
- ・風薰る稚児行列のお練り哉(釋妙水)
- ・薰風や仏旗はためく稚児お練(玉)

★館せつ子様(84歳・小杉)5月4日往生の素懐を遂げられました。合掌  
◆5月29日『門信徒総会&法要打ち上げ会』60名が参加、本堂で法要写真スライドショーを見た後、庫裏で宴会。飛驒の大吟醸で盛り上りました。  
◆打ち上げ会に埼玉川内様ご恵送の「金子みすずクッキー(山口河内先生施設作成)」が「縁に感謝」のシールを付けてお土産として配布されました。  
◆境内鐘撞き堂「ようこそ善正寺へ」の掲示板下に、法要写真集多数が6月末まで展示予定。「自由にご覧下さい。  
☆編集子より:2面に大遠忌写真掲載。

ホットニュース  
★館せつ子様(84歳・小杉)5月4日往生の素懐を遂げられました。合掌

# 5・15ご法要写真集 第2弾 善正寺(三重・四日市) 2016.5.15



青空に五色旗・紅白幕、白いスロープを映える  
250名の稚児、1000人の稚児行列



坊主トドハセ善正寺へ 仙教讀歌の集い(混合囃美林)  
着物姿で登場する 歌(笛葉梨惠林)



本堂は超満員 仙教讀歌を聴く



次男と孫



住職と朱糸(館音可代)



稚児の思い出が生涯忘からぬか!! 親子を引かれ仏像ディビュ



人・人・人で溢れる境内



立革寄進(親の代より5代)



伊崎栄一、伊崎顯次、館音夫氏



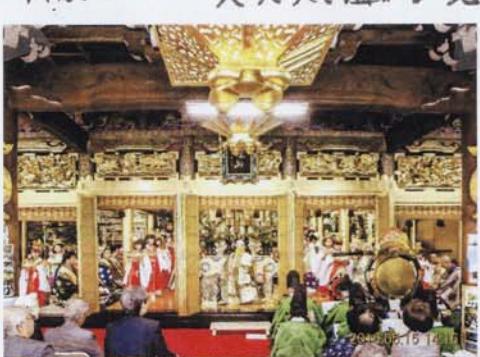
五色旗(館音可代) 太鼓(坂部道夫・鶴洲可代)



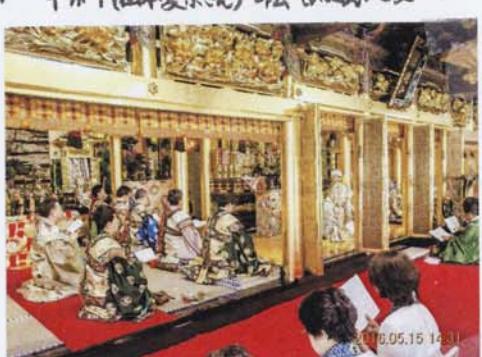
高角稚児衆10人の音楽法要



献華献灯20名の女性達



おこせかね音楽法要



稚児とキーボードの共演 和歌の歌を高らかに響く



女性スタッフの行き届いたあたたかさ



「こち、こち」と和やかな献華シーン



献華献灯者20名が下陣で 記念講演 演説「敬文」に心掛け、大いに盛り上がる 河内美舟先生(山口)



ご法要から一ヶ月以上が経ちました。ご法要前とご法要後の  
一ヶ月間を比べると時間の経つスピードが違います。カウントダウン  
している時は時間の密度が濃く緊張感の連続でした。  
未だにその後遺症を引きずる夜中に目覚めるこもしば  
翌日の集合場所と時刻が分からず慌てふためく夢。一体や  
くりできるのはいつになることやら。いずれにせよ生涯忘れるこ  
ができるほどの貴重な経験でした。講師さんを躍動感激する  
アリーナ性に富んだご法要でしたね。門徒様方の結束力の  
素晴らしさを感心しましたとの評。住職と坊守、一部の門徒  
さんのお力だけで勤まるような法要ではあります。一人が  
役割を持つて、協力して下さったおかげです。普通難児荷物  
に注目されがちですが、その間本堂は置いてきぼり、そこで歌  
手とピアノのリードで「仙教讃歌を歌う集い」を企画。娘た  
ちよ西を初めて聞いた女性が「この歌でセミ父を思い出し、父を  
願いを受け取りました」との感想。雅楽とキーボードのコラ  
ボによる音楽法要も大成功。2人の女性による献華、  
献灯と散華。何より見事な立華寄遊が法要の魅力  
を倍増、全てが善正寺を支えて下さる皆様のおかげです。  
高齢や病気でお参りできなかつた方のご冥も忘れてはなり  
ません。250人のお稚児さんとご家族の新たな仏縁を  
頂き、これからも地域に必要とされるお寺、皆様と共に  
歩むお寺になりたいと思います。皆様から賜りました  
ご厚情とお志に仰れを申し上げます。ご勤めあり  
がとうございました。

平成二十八年七月

合掌

善正寺坊守 拝